

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年8月9日

**【四半期会計期間】** 第45期第1四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

**【会社名】** 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社

**【英訳名】** Kentucky Fried Chicken Japan, Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役執行役員社長 渡辺正夫

**【本店の所在の場所】** 東京都渋谷区恵比寿南一丁目15番1号

**【電話番号】** (03) 3719 - 0231

**【事務連絡者氏名】** 経営管理ユニットゼネラルマネージャー 野村 聖

**【最寄りの連絡場所】** 東京都渋谷区恵比寿南一丁目15番1号

**【電話番号】** (03) 3719 - 0231

**【事務連絡者氏名】** 経営管理ユニットゼネラルマネージャー 野村 聖

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第44期 第1四半期 連結累計期間		第45期 第1四半期 連結累計期間		第44期	
	自 至	平成24年4月1日 平成24年6月30日	自 至	平成25年4月1日 平成25年6月30日	自 至	平成24年4月1日 平成25年3月31日
売上高 (百万円)		20,271		19,043		85,864
経常利益又は経常損失 ( ) (百万円)		100		116		2,506
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失 ( ) (百万円)		42		164		1,203
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)		36		175		1,209
純資産額 (百万円)		22,618		22,476		23,214
総資産額 (百万円)		39,466		38,500		40,308
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損 失金額 ( ) (円)		1.89		7.35		53.64
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)		-		-		-
自己資本比率 (%)		57.3		58.4		57.6

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

##### (KFC事業)

平成25年5月16日付でケイ・ダイニング株式会社を新規設立し、連結子会社にしております。

##### (ピザハット事業)

平成25年4月24日付でフェニックス・フーズ株式会社を、平成25年5月16日付でレッドルーフ・ピザ株式会社を新規設立し、それぞれ連結子会社にしております。

##### (その他事業)

平成25年5月16日付でレッドルーフ・ナチュラル株式会社を新規設立し、連結子会社にしております。

この結果、平成25年6月30日現在では、当社グループは、当社、子会社6社により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当社は、平成25年5月16日開催の取締役会において、平成26年4月1日を効力発生日として、当社の店舗運営事業を会社分割により、当社100%子会社として設立したケイ・ダイニング株式会社、レッドルーフ・ピザ株式会社及びレッドルーフ・ナチュラル株式会社に承継させることを決議し、同日吸収分割契約を締結いたしました。

会社分割の概要は、以下のとおりであります。

#### (1) 会社分割の目的

##### グループ経営戦略機能の強化

持株会社体制に移行することで、グループ経営戦略の企画・立案機能を強化するとともに、経営資源の配分を最適化させ、グループ全体の企業価値の向上を目指します。また、グループの経営・監督機能と業務執行機能を分離することにより、持株会社と事業会社の役割と責任を明確化し、経営のスピード強化を図ります。

##### 各事業の価値創造力の強化

各事業については、グループ経営戦略に基づき、各社ごとの事業活動に特化し、経営意思決定の迅速化による機動的且つ効率的な事業運営により、価値ある商品・サービス提供の強化を推進します。

##### グループシナジーの発揮

持株会社主導のもと、当社グループが保有する経営資源を横断的に活用することにより、グループシナジーを発揮します。

#### (2) 会社分割の方法

当社のKFC事業、ピザハット事業及びその他事業をケイ・ダイニング株式会社、レッドルーフ・ピザ株式会社及びレッドルーフ・ナチュラル株式会社にそれぞれ承継させる吸収分割といたします。

#### (3) 会社分割の期日

平成26年4月1日（予定）

## (4) 分割に際して発行する株式及び割当

承継会社であるケイ・ダイニング株式会社、レッドルーフ・ピザ株式会社及びレッドルーフ・ナチュラル株式会社は、本件分割に際して普通株式をそれぞれ2,480株、2,480株及び2,480株を発行し、これを全て分割会社である当社に割当て交付いたします。

## (5) 割当株式数の算定根拠

承継会社となるケイ・ダイニング株式会社、レッドルーフ・ピザ株式会社及びレッドルーフ・ナチュラル株式会社は当社の100%子会社であり、また、本件吸収分割はいわゆる物的分割であることから、承継会社が分割会社である当社に交付する普通株式数については、これを任意に定めることができるものと認められるため、当社及び承継会社が協議の上決定しており、第三者機関による算定は実施しておりません。

## (6) 分割する事業部門の経営成績（平成25年3月期）

	K F C 事業	ピザハット事業	その他事業
売上高（百万円）	64,099	15,562	538

## (7) 分割する資産・負債の状況（平成25年3月31日現在）

## K F C 事業

資産	金額(百万円)	負債	金額(百万円)
流動資産	7,065	流動負債	7,433
固定資産	8,041	固定負債	674
合計	15,107	合計	8,108

## ピザハット事業

資産	金額(百万円)	負債	金額(百万円)
流動資産	1,977	流動負債	1,757
固定資産	1,110	固定負債	330
合計	3,087	合計	2,088

## その他事業

資産	金額(百万円)	負債	金額(百万円)
流動資産	262	流動負債	57
固定資産	107	固定負債	12
合計	369	合計	70

## (8) 承継会社となる会社の概要

## KFC事業

商号 ケイ・ダイニング株式会社  
代表者 代表取締役社長 渡辺 正夫  
住所 東京都渋谷区恵比寿南一丁目15番1号  
資本金 100百万円(予定)  
事業内容 レストラン経営並びにフライドチキン等の販売

## ピザハット事業

商号 レッドルーフ・ピザ株式会社  
代表者 代表取締役社長 渡辺 正夫  
住所 東京都渋谷区恵比寿南一丁目15番1号  
資本金 100百万円(予定)  
事業内容 レストラン経営並びにピザ等の販売

## その他事業

商号 レッドルーフ・ナチュラル株式会社  
代表者 代表取締役社長 渡辺 正夫  
住所 東京都渋谷区恵比寿南一丁目15番1号  
資本金 100百万円(予定)  
事業内容 レストラン経営並びにピザ等の販売

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### （1）経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、昨年末の政権交代による経済政策への期待感から円安を背景とした輸出関連企業の業績改善が進む一方で、個人消費への影響は未だ限定的であり、引き続き、先行きは不透明な状態が続いております。

外食業界におきましても、生活防衛意識による節約・低価格志向が継続しており、依然として厳しい経営環境が続きました。

こうした環境の下、当社グループ（当社及び連結子会社）は、新中期経営計画『A B R 2014-Achieving Breakthrough Results 2nd Stage-』に基づき、「K F C事業の新たな挑戦」「ピザハット事業の構造改革」「新規事業のビジネスモデル確立」を重点施策と位置づけ、ブランド価値の一層の向上を目指すとともにその確実な実現に向け、「I Tの戦略的活用と新しいマーケティング手法の確立」「人材育成と組織能力の強化」「事業基盤の強化」を掲げ、迅速且つ機動的に実行してまいりました。

また、「食の安全・安心」に注力するとともに、新商品の投入やマスメディアやソーシャルメディアなどといったクロスメディアの活用による広告宣伝活動を展開いたしました。

しかしながら、長引く景気低迷から消費者の節約志向の恒常化の影響により、当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は190億4千3百万円（対前年同期比6.1%減）、営業損失は1億3千9百万円（前年同期は営業利益6千4百万円）、経常損失は1億1千6百万円（前年同期は経常利益1億円）、四半期純損失は1億6千4百万円（前年同期は四半期純利益4千2百万円）となりました。

当第1四半期連結累計期間における報告セグメント別の業績は次のとおりであり、利益は営業利益ベースの数値であります。

#### K F C事業

当第1四半期連結累計期間は、新中期経営計画「A B R 2014」の重点施策である「K F C事業の新たな挑戦」の実現に向け、新商品の開発導入やサービス強化に取り組みました。

また、広告宣伝活動としては、おいしさの先にある、ちょっと気分のあがる瞬間を「sogood」と位置づけてコミュニケーション活動を行ってまいりました。それをさらに拡大し『「オリジナルチキン」は“手づくり”』のメッセージを、K F C店舗、社員・パートナー（アルバイト）、広告・販促物などを通じて発信する「sogood」活動を展開し、手づくりのおいしさ体感店舗としてK F C東京ドームシティラクーア店を本年6月にオープン致しました。

これらの施策の結果、当第1四半期連結累計期間におけるK F C事業の業績は、売上高は151億2千8百万円（対前年同期比7.3%減）、営業利益は9億2千7百万円（同19.0%減）となりました。

## ピザハット事業

当第1四半期連結累計期間は、新中期経営計画「A B R 2014」の重点施策である「ピザハット事業の構造改革」の実現に向け、ブランドイメージの定着を図るため、引き続き「おいしさ、もっと」をスローガンとして、新商品の開発に取り組みました。また、マーケティング活動としては、ピザハットがアメリカに第1号店をオープンしてから55周年を迎えるキャンペーンとして、5種類の新ピザを投入し展開するとともに、スマートフォンのオーダーアプリの利用促進やピザハットオンラインによるメールマガジンの配信などWEBサービスを強化し、新規顧客の獲得に注力しました。

これらの施策の結果、当第1四半期連結累計期間におけるピザハット事業の業績は、売上高は37億7千6百万円（対前年同期比1.4%減）、営業損失は6千2百万円（前年同期は営業損失3千5百万円）となりました。

## その他事業

当社グループにおいては、新中期経営計画「A B R 2014」で掲げた「新規事業のビジネスモデル確立」の一環として、ビュッフェ・スタイルのイタリアンレストラン「ピザハット・ナチュラル」を5店舗展開し、新商品の拡充やヘルシーな野菜料理メニューなどを導入しました。

また、チャリティーイベントの開催や祭日特別キャンペーンにより新規顧客の獲得を目指すとともに、メール会員には最新情報やクーポンなどを配信することでコミュニケーションを強化し、顧客の来店頻度向上に努めました。

これらの施策の結果、当第1四半期連結累計期間におけるその他事業の業績は、売上高は1億3千8百万円（対前年同期比10.9%増）、営業損失は1千4百万円（前年同期は営業損失8百万円）となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間の連結財政状態は、前連結会計年度末と比較して総資産は18億8百万円減少し、385億円となりました。その主な要因は、現金及び預金の増加19億3千2百万円、売掛金の減少3億9千9百万円、有価証券の減少29億9千9百万円及び無形固定資産の減少1億8千万円等によるものであります。

負債は10億7千万円減少し、160億2千4百万円となりました。その主な要因は、未払法人税等の減少7億1千2百万円及び賞与引当金の減少4億9百万円等によるものであります。

純資産は224億7千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億3千8百万円減少し、自己資本比率は58.4%となっております。その主な要因は、四半期純損失の計上1億6千4百万円、剰余金の配当による減少5億6千万円及び自己株式の取得による減少1百万円等によるものであります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	49,953,000
計	49,953,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	22,783,000	22,783,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は1,000株であります。
計	22,783,000	22,783,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30 日		22,783,000		7,297		1,000



## (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 345,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 22,243,000	22,243	
単元未満株式	普通株式 195,000		
発行済株式総数	22,783,000		
総株主の議決権		22,243	

- (注) 1 「単元未満株式」には当社所有の自己株式235株及び証券保管振替機構名義の株式100株が含まれております。  
2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本ケンタッキー・ フライド・チキン株式会社 (自己保有株式)	東京都渋谷区恵比寿南 1丁目15番1号	345,000		345,000	1.51
計		345,000		345,000	1.51

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,502	15,434
売掛金	3,775	3,375
有価証券	3,999	999
商品	668	500
原材料及び貯蔵品	61	71
前払費用	414	401
短期貸付金	8	7
繰延税金資産	376	365
その他	764	747
貸倒引当金	231	189
流動資産合計	23,340	21,713
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,090	2,174
土地	2,647	2,647
その他(純額)	1,446	1,419
有形固定資産合計	6,184	6,240
無形固定資産		
のれん	2	1
ソフトウェア	2,650	2,545
ソフトウェア仮勘定	188	115
その他	109	108
無形固定資産合計	2,950	2,770
投資その他の資産		
投資有価証券	162	145
差入保証金	5,788	5,760
繰延税金資産	1,734	1,750
その他	294	307
貸倒引当金	145	187
投資その他の資産合計	7,833	7,776
固定資産合計	16,968	16,787
資産合計	40,308	38,500

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	6,568	6,305
未払金	4,187	3,768
リース債務	211	212
未払法人税等	788	76
未払費用	213	260
賞与引当金	509	100
役員賞与引当金	30	-
資産除去債務	4	9
その他	515	1,263
流動負債合計	13,029	11,996
固定負債		
リース債務	207	157
退職給付引当金	2,696	2,602
役員退職慰労引当金	64	-
ポイント引当金	81	72
長期未払金	-	204
資産除去債務	618	619
その他	395	372
固定負債合計	4,065	4,028
負債合計	17,094	16,024
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,297	7,297
資本剰余金	10,430	10,430
利益剰余金	6,165	5,439
自己株式	710	711
株主資本合計	23,182	22,455
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31	20
その他の包括利益累計額合計	31	20
純資産合計	23,214	22,476
負債純資産合計	40,308	38,500

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	20,271	19,043
売上原価	11,033	10,229
売上総利益	9,237	8,813
販売費及び一般管理費	9,173	8,953
営業利益又は営業損失( )	64	139
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	0	0
受取賃貸料	68	51
その他	5	1
営業外収益合計	77	56
営業外費用		
支払利息	4	2
店舗改装等固定資産除却損	9	10
賃貸費用	24	17
その他	3	2
営業外費用合計	41	33
経常利益又は経常損失( )	100	116
特別利益		
店舗譲渡益	4	0
受取補償金	41	-
特別利益合計	45	0
特別損失		
固定資産除却損	0	0
店舗閉鎖損失	1	1
減損損失	0	0
特別損失合計	1	3
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	144	119
法人税、住民税及び事業税	29	44
法人税等調整額	72	1
法人税等合計	102	45
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	42	164
四半期純利益又は四半期純損失( )	42	164

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	42	164
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	10
その他の包括利益合計	5	10
四半期包括利益	36	175
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	36	175
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## 【注記事項】

## (連結の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
(連結の範囲の変更) 当第1四半期連結累計期間において、フェニックス・フーズ株式会社、ケイ・ダイニング株式会社、レッドルーフ・ピザ株式会社及びレッドルーフ・ナチュラル株式会社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

## (追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
(役員退職慰労引当金及び退職給付引当金) 当社は、平成25年5月16日開催の取締役会において、平成25年6月12日開催の定時株主総会終結の時をもって役員及び執行役員の退職慰労金制度を廃止することを決議するとともに、同株主総会において当該制度の廃止に伴う打ち切り支給を決議いたしました。 これにより、打ち切り支給による退職慰労金相当額につきましては、役員退職慰労引当金及び退職給付引当金残高を取崩し、将来の打ち切り支給予定額を長期未払金に計上しております。なお、打ち切り支給額の未払金残高は、取締役3名に対し41百万円、執行役員9名に対し163百万円であります。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
減価償却費	584百万円	538百万円
のれんの償却額	1百万円	0百万円

## (株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月13日 定時株主総会	普通株式	561	25.00	平成24年3月31日	平成24年6月14日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月12日 定時株主総会	普通株式	560	25.00	平成25年3月31日	平成25年6月13日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。



(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	KFC事業	ピザハット事業	その他事業	
売上高				
外部顧客への売上高	16,317	3,829	124	20,271
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	16,317	3,829	124	20,271
セグメント利益又は損失( )	1,145	35	8	1,101

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,101
全社費用(注)	1,037
四半期連結損益計算書の営業利益	64

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	KFC事業	ピザハット事業	その他事業	
売上高				
外部顧客への売上高	15,128	3,776	138	19,043
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	15,128	3,776	138	19,043
セグメント利益又は損失( )	927	62	14	850

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	850
全社費用(注)	989
四半期連結損益計算書の営業損失( )	139

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )	1.89円	7.35円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )(百万円)	42	164
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )(百万円)	42	164
普通株式の期中平均株式数(千株)	22,448	22,437

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8 月 8 日

日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 峯 敬 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 郷 右 近 隆 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれておりません。